

2022年度9月入学
大阪経済大学 大学院

経営情報研究科 経営情報専攻 修士課程

研究指導担当者一覧

【出願にあたっての注意事項】

- ◎出願の際は必ず、本学入試情報サイト(<https://www.osaka-ue.ac.jp/entrance/admissions/graduate/>)で最新の情報を確認した上で志望する教員名を願書に記入してください。
※担当教員は、変更になることがあります。
- ◎税理士試験科目免除対象分野(会計)は、氏名欄に「★」がある教員のみ担当します。
※「外国人留学生入試」に出願する者は、税理士試験科目免除対象分野(会計)を選択することはできません。
※税理士試験科目免除のための論文指導を希望する者は、「一般入試」・「学内特別入試」・「サテライトコース(北浜社会人入試)」・「学内飛び級入試」のいずれかに出願してください。
- ◎志望する指導教員名を願書に記入してください。
(第2・第3志望欄には、第2志望・第3志望でも入学する意思のある場合のみ記入してください)
- ◎設備等の関係で、研究テーマによっては、研究指導を大隅キャンパスでのみ実施する場合があります。
- ◎会計・会計関連科目は、主に北浜キャンパスで開講しています。

【お知らせ】

- ◎教員との個別面談を希望する場合は、上記本学入試情報サイトよりお申し込みください。
- ◎2022年度のシラバス、授業科目、時間割は、本学WEBサイト大学院紹介ページ(<https://www.osaka-ue.ac.jp/education/graduate/>)から閲覧できます。

担当教員	浅田 拓史 ★
テーマ	経営改革と管理会計の関係に関する経験的研究
担当科目	管理会計論、会計研究方法論、中小企業のための原価計算論
受講についての必要な予備知識	会計の基礎的知識、実務経験があることが望ましい
評価の方法	授業への出席状況、発表・報告、レポート・論文など、総合的に評価する。
研究指導について	<p>修士論文を書くことを希望する場合は、企業における予算管理や投資意思決定などの管理会計実践やその変化を分析してもらいます。例えば、経営改革においてどのような管理会計情報がどのように使われているのかを調査したり、予算管理上の様々な問題を企業がどのように克服しているかなどを調査したりすることを通じて、最先端の経営実務を様々な理論的枠組みを用いて分析します。</p> <p>そのためには以下のことが必要です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査対象企業から調査の許可を得ること。 ・調査先に対して10回程度の聞き取り調査を行うこと。 ・研究課題に関連する先行研究（主に英語の論文）を読み体系的に整理すること。 ・成果を研究会等で発表すること。 <p>講義では、主に各自のテーマに関連する論文の報告から始め、調査の進展に合わせて、修士論文の構成や内容に関するディスカッションを行う予定です。</p>
志願者へのメッセージ	興味のある方は一度声をかけてください。

担当教員	伊藤 博志
テーマ	中小・ベンチャー企業の新しいビジネスモデルとファイナンス手法の実証分析
担当科目	中小企業経営論
受講についての必要な予備知識	近代経済学や経営学の基礎知識はもちろん、中小企業およびベンチャー企業の経営環境や経営戦略に対する基礎知識や知的探究心を前提とする。さらには会計、税務、資金調達手法などの実践的な知識があれば、より深い研究成果が期待できる。
評価の方法	報告、レポート等を勘案して評価する。
研究指導について	<p>第一年度は、中小企業、ベンチャー企業さらにはNPO法人などによるユニークな経営事例を検証しながら、その経営戦略、組織体質、ファイナンス構造などを考察する。これにより、具体的な分析対象とそれにアプローチするための分析手法、その結果導き出される仮説を自分なりに明らかにしてもらいたい。</p> <p>第二年度は修士論文の完成を目指し、考察対象とした企業の定性的・定量的なデータ処理をはじめ、関連文献の整理など論文作成の具体化(可視化)作業を進めていく。何のために(研究の意義)、何を(仮説)、どうやって(対象と分析手法)明らかにするのかという意識を常に持ち続けることが大切になる。</p> <p>したがって、入学前における程度の知識と問題認識を持っておられるか、卒業後に修得した知識を実務的に活用する予定の方を研究指導の対象者として考えている。</p>
志願者へのメッセージ	

担当教員	井上 晴可
テーマ	ビッグデータ、オープンデータを活用したデータ分析に関する研究
担当科目	データ分析特論、ビッグデータ解析特論
受講についての必要な予備知識	ビッグデータやオープンデータに関する基礎的な知識を有することが望ましい。
評価の方法	出席状況、レポートやその発表、論文などを総合して評価する。
研究指導について	<p>1年次は、ビッグデータ、オープンデータの活用事例やデータの分析方法などを調査し、プレゼンテーションにまとめて発表することで基礎的な知識の獲得を目指す。そして、それらの応用や既存の課題点を整理し、相談しながら各自の研究テーマを決定する。</p> <p>2年次は、各自のテーマに沿った分析方法を学び、修士論文を執筆する。</p>
志願者へのメッセージ	何事にも意欲的で根気強い学生を希望する。

担当教員	岩佐 托朗
テーマ	日本とヨーロッパの文化・社会に関する比較研究
担当科目	日欧比較文化特論
受講についての必要な予備知識	ヨーロッパ諸国の諸制度についての知識。専門文献が読める英語力。
評価の方法	講義への準備状況、議論への参加、レポート、修士論文について評価する。
研究指導について	本講義で扱う「文化」とは、狭義の芸術（文学・絵画等）ではなく、広義の諸制度（社会・経済・経営等）における行動様式・思考様式などの文化的・社会的な慣習や価値観を意味する。従って、比較対象となる分野は広範に渡る。 1年次は、ヨーロッパ諸国の多様な文化を学び、日本文化と比較しつつ、両文化をより深く理解することを目標とする。 2年次は、特に関心の高い分野をテーマに選択し修士論文を執筆する。
志願者へのメッセージ	専門文献が読めるだけの英語力と日本語力、及び、ヨーロッパを中心に世界に視野を広げたいという強い意欲が必要です。

担当教員	大瀧 友織
テーマ	家族のありようと夫婦関係
担当科目	家族社会学特論、文化社会学特論
受講についての必要な予備知識	結婚・夫婦・家族といった問題についての関心が高いこと。また、量的データ、質的データの分析に関する基礎的な知識があることが望ましい。
評価の方法	授業への出席状況や課題の報告、論文等を総合して評価する。
研究指導について	1年時： 結婚・夫婦・家族に関する文献を読み込み、基本的な知識を習得する。また、各自の問題意識にしたがいつつ、調査を設計し、実施する。 2年次： 各自の研究課題にそって修士論文を作成する。
志願者へのメッセージ	家族は、あまりにも身近であるために、「当たり前」の存在として思われがちですが、改めて家族について考えてみると、興味深い、意外な様相を見出すことができるはずです。

担当教員	小川 正史
テーマ	ビジネスプログラミング
担当科目	マルチメディア特論
受講についての必要な予備知識	パソコンとインターネットに関する基礎知識と操作技術。Visual Basic, Java, C 等によるプログラミング技術。Photoshop等のフォトレタッチソフトの基礎知識。
評価の方法	授業の出席状況、授業時に設定した課題、課題研究レポート・修士論文。
研究指導について	企業活動をモデルに情報システムを設計し、設計したシステムをデータベースやサーバーの技術を用いて実現していく。また、フォトレタッチソフトやアニメーションを使用したコンテンツ作成技術について学ぶ。 初年度前半は、研究テーマを選定し、そのテーマに関連して、プログラミング、サーバー管理、データベース等の技術について学んでいく。またコンテンツ作成のために、フォトレタッチソフトやアニメーション等のマルチメディアアプリケーションについても学んでいく。 初年度後半からは、選定したテーマにそって、プログラミング、サーバー管理、コンテンツ制作などを行う。 二年目は、各自の選定したテーマにそって情報システムやコンテンツを完成させるとともに、それらを利用した各種実験や調査を行い、修士論文（課題研究）をまとめていく。
志願者へのメッセージ	

担当教員	加藤 千雄
テーマ	資本市場と会計情報の関係に関する実証研究
担当科目	コーポレートファイナンス
受講についての必要な予備知識	企業の財務行動および財務情報が企業価値に与える影響を、実証研究の方法により分析することを目的とします。受講の必須（前提）条件ではありませんが、統計学・計量経済学のテクニックの修得と、主に英文先行文献の講読を集中的に行う予定です。
評価の方法	講義での積極的な議論への参加とレポートで各5割考慮します。
研究指導について	株式および財務情報に関する限り、数量的な分析に必要なデータは大半のものを用意できると思います。初年時に論文の検索を通じて実証可能な仮説の定立を行い、次年度は修士論文完成に向け、多面的な分析を進めていくことを目指します。
志願者へのメッセージ	

担当教員	草薙 信照
テーマ	GISを利用した社会・経済の空間分析
担当科目	情報処理特論、空間情報処理特論
受講についての必要な予備知識	空間情報処理に関する学部レベルの知識を有することが望ましい。また、「情報処理特論」および「空間情報処理特論」を並行して受講することを強く推奨する。
評価の方法	研究のプロセスと成果を総合的に評価する。
研究指導について	GISとは、「地理情報システム」のことであるが、その実体は地理情報を主たる処理対象とする、総合的な空間分析ツール群である。空間分析が扱うのは、地球上の位置と直接または間接に関連付けられた対象物や現象に関する情報であり、その適用範囲は地球規模の環境問題から店舗の商圈分析まで幅広い。ここでは、空間と関連付けられるあらゆる情報を科学的に分析するための理論・手法・技術を習得しながら、それらを現実世界に適用した実践的な研究に取り組んでいく。研究課題の具体例を以下に示すが、これらの枠にとらわれることなく、自由な発想で興味あるテーマを見つけ出してもらいたい。 ○人口や産業の集積，将来人口の推計 ○災害・防災（ハザードマップ），安全・安心（地理的犯罪分析） ○医療・保健・健康（疾病地図），考古・文化財（古地図） ○エリアマーケティング（商圈人口，店舗密度） など
志願者へのメッセージ	社会の動向に関心を持って、研究を楽しみましょう。

担当教員	清水 一
テーマ	企業価値・企業業績と企業活動の関係に関する実証研究
担当科目	財務管理特論
受講についての必要な予備知識	企業財務および統計学の初歩的な知識があることが望ましい
評価の方法	授業への参加度および修士論文
研究指導について	初年次は文献研究を中心に、研究課題を絞り込み、検証可能な仮説を設定することを目標とします。2年目は、仮説の検証を行い、論文として仕上げることを目標とします。 受講生へ 企業の何らかの側面（コーポレート・ガバナンス、従業員の処遇システム、経営戦略などなんでもよい）に興味を持っており、さらに、それが企業業績や企業価値とどのように結びついているかということに興味を持つ人を歓迎します。
志願者へのメッセージ	

担当教員	杉田 武志 ★
テーマ	財務会計の領域全般をテーマとしている（財務会計の理論、会計制度、財務分析、国際会計基準の現状、会計の歴史etc.）。
担当科目	財務会計論
受講についての必要な予備知識	会計学の基礎的知識を備えていることが望ましい。*
評価の方法	授業における発表・報告の内容、レポート・論文の構成、内容など、総合的に評価する。*基本的に欠席が続くと成績評価できないので注意されたい。
研究指導について	M1では、財務会計を中心とした研究を行えるよう、輪読をするとともに、各自で修士論文のテーマ（財務会計領域）を決定する。テーマ決定後は、先行研究のレビューを行い、テーマに関連する制度等の考察を行い、適宜、報告をしてもらう。* M2では、各自で決定したテーマに基づき修士論文の作成を行う。
志願者へのメッセージ	

担当教員	中村 健二
テーマ	企業情報とデータマイニング、データの分析と活用に関する研究
担当科目	情報ネットワーク特論、企業情報システム特論
受講についての必要な予備知識	コンピュータの基礎的な知識を有することが望ましい。
評価の方法	出席状況、発表、レポート等を総合して評価する。
研究指導について	1年次前期 データマイニング（情報フィルタリング、情報検索、推薦など）の活用事例や最新のICT（iPadやスマートフォン、クラウドサービスなど）のビジネスへの活用事例を調査し、プレゼンテーションにまとめて発表する。 1年次後期 1年次前期の調査結果を踏まえ、既存研究の課題点や活用事例の応用などを考え、自身の取り組む研究テーマを決定する。研究テーマについては、自身の経験や興味がある分野で、今後のスキルアップに役立つものを一緒に考え、相談しながら決定する。 2年次前期 研究テーマに従い研究を推進する。実施方法は、文献整理、成功/失敗事例の比較分析、データ解析、アンケートなど、テーマに即した方法を選択する。 2年次後期 大学院での研究活動の総括として、修士論文を執筆する。
志願者へのメッセージ	

担当教員	難波 孝志
テーマ	地域社会の社会学的研究
担当科目	地域社会学特論、ソーシャルネットワーク特論
受講についての必要な予備知識	社会調査士関連科目、「都市社会学」「地域社会学」等を受講していることが望ましい。
評価の方法	研究発表および課題を総合的に評価する。
研究指導について	実際に地域社会の現場に入り、主に質的方法による社会調査を実施する。調査の現場では最先端の調査技術と鋭い観察力を、調査分析には的確な社会学理論の応用が要求される。そこで、本ゼミでは、調査のプロとしての社会調査技術、分析に必要な社会学基礎理論を並行して修得する。
志願者へのメッセージ	地域社会はあるのか、ないのか、必要なか、不要なのか、一緒に考えましょう。

担当教員	野村 国彦
テーマ	身体情報（“脳・からだ”）の非線形時系列解析と応用
担当科目	身体情報処理特論
受講についての必要な予備知識	特に必要ないが、必要に応じて自習する意欲が強く望まれる。 身体情報は時間とともに変化する時系列データとして捉える事が出来るため、時系列データを解析あるいは利用することが出来るようになることが望まれる。その際に「統計学」の知識が必要となる。身体情報からヒトの理を解き明かす、あるいは身体情報を利用したデバイス開発に興味がある方が対象です。
評価の方法	研究発表および課題を総合的に評価する。*
研究指導について	身体情報とは“脳・からだ”から測りうる計測データのことである。この計測データから“脳・からだ”の不思議を解き明かすこと、あるいは計測データを入力とするような装置たとえばBCI (Brain Computer Interface) デバイスの開発を目指す。 2年次は、自ら設定するテーマを研究し、論文として仕上げることを目指す。
志願者へのメッセージ	

担当教員	細井 真人
テーマ	エージェントベースモデルによる経済シミュレーション
担当科目	マクロ経済分析、経済シミュレーション
受講についての必要な予備知識	コンピュータ・プログラミングと経済が好きで、それらの知識があると望ましい。
評価の方法	研究に対する取り組みや進展状況、研究の成果により総合的に評価を行なう。
研究指導について	エージェントベースモデルによる経済シミュレーションを用いて、経済分野の分析や問題の解決を行なう。 最初は修士論文作成に必要な知識および技術、具体的には、 (1) シミュレーション手法 (2) 先行研究での代表的なモデル (3) プログラミング (4) シミュレーションを適用する分野 について受講生による発表を通じて研究指導を行ない、その後、修士論文の指導を行なう。
志願者へのメッセージ	ゼミでは、調べてみることに、考えてみることに、研究することを楽しみましょう。

担当教員	宮武 記章 ★
テーマ	電力会社の会計問題
担当科目	会計基礎特論
受講についての必要な予備知識	一般的な教科書レベルの会計の知識があることを前提としている。
評価の方法	授業における発表・課題の内容による。
研究指導について	受講生の関心に応じた分野を中心に学習しつつ、各自で修士論文につながる論文を探して、要約・発表してもらう。それを何度か繰り返すことによって、修士論文のテーマを決定するとともに知識を深めていく。* M2の段階では、修士論文の指導が中心となるが、受講生には先行研究のレビューおよび修士論文の進行状況を随時報告してもらう。*
志願者へのメッセージ	

担当教員	米川 雅士
テーマ	情報社会において利用拡大と利便性向上を目指したシステムの開発と研究
担当科目	アルゴリズム特論、情報システム利用特論
受講についての必要な予備知識	コンピュータ、プログラミングの基礎的な知識を持っている方が望ましい。
評価の方法	講義・学会発表などの必要な行事への参加状況、修士論文、発表状況などを統合的に判断して評価する。
研究指導について	<p>基本的にはシステム全般について指導を実施するが、特に測位衛星利用、画像処理、自動航法、地理情報システム関連について指導する。</p> <p>1年次通年 講義などによりコンピュータに関連する知識と各種目的に合った調査方法などの基礎的な知識を学び、合わせて修士論文作成に必要なシステム開発とオープンデータベースの利用についても必要な知識を習得する。その後、修士論文作成に向け研究テーマを考える。</p> <p>2年次春学期 1年次に確定した研究テーマについて研究を実施し、その研究成果の発信として学会で発表する。</p> <p>2年次秋学期 最終的に修士論文作成と発表会を実施する。</p>
志願者へのメッセージ	自分の研究に関心を持ち、積極的に外部などの学会発表への参加をすることを求める。

【2022年度不開講】

担当教員	苫米地 なつ帆
担当科目	教育社会学特論、計量社会学特論
担当教員	野村 友和
担当科目	ミクロ経済分析、労働経済学特論
担当教員	山本 公平
担当科目	経営基礎特論、中小企業戦略論
担当教員	林 怡蓉
担当科目	メディア社会学、公共圏の社会学